

# 戸二小 《算数》 授業スタイル


## 授業づくりのポイント

### 問題提示を工夫する

児童の「どうしてだろう?」という問い、「あれ、おかしいぞ」という思考のずれ、「早くやりたい」と思う学習意欲を喚起するように工夫することで、児童にとって必要感のある問題提示を行うようにする。

### 児童の考えが全体で共有される練り上げを行う

教師と児童の一対一対応にならないよう、問いかけや切り返しの発問を工夫する。

学習過程	指導のポイント・アイデア
<b>1 問題を知る</b>  ↑ 活用しましょう <b>2 課題をつくる</b> <b>3 見通しをもつ</b>	<b>問題提示の工夫</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少しずつ隠しながら提示する。</li> <li>・フラッシュで瞬間的に提示する。</li> <li>・教師がわざと間違えたり、挑戦的に提示したりする。</li> <li>・易から難へ段階的に提示する。</li> <li>・問題の条件を制御（過不足）して提示する。</li> <li>・似て否なる問題を提示する。（ずれを生じさせる）</li> </ul> <b>児童にとって必要感のある課題設定</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の表現（発表・つぶやき）を生かして設定する。</li> <li>・児童が「やってみたい」「できるかな」と思える課題。</li> </ul> <b>答えの見積もり・方法の見通し</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・答えの見当をつける。</li> <li>・必要に応じて、方法が「見える」児童に「ヒント」を出させる。</li> </ul>
<b>4 自力解決をする</b> <b>5 練り上げる</b>	<b>児童の思考・表現の時間</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉と数・式・図・表・グラフを活用させて、簡潔にまとめられるようにする。</li> </ul> <b>児童と児童とがつながる話合い</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表児童と教師の一対一のやり取りにならないようにする。</li> <li>・必要に応じて、ペア・小グループでの話合いを行う。</li> <li>・言葉や数・式と図・表・グラフを行き来しながら思考を深めていく。</li> <li>・本時で児童に押さえない内容ほど、全体でしっかりと共有できるようにする。（発問・ペアでの話合いなど）</li> <li>・考えのよさや表現のよさを認め合えるようにする。</li> </ul>
<b>6 まとめをする</b>	<b>児童の言葉を生かしたまとめ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き出しだけを与えて続きを書かせる・言わせる。</li> <li>・課題に正対したまとめを行う。</li> </ul>
<b>7 適用問題を解く</b> <b>8 ふりかえりをする</b>	<b>練り上げ・まとめが生きる適用問題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習についての即時評価を行えるようにする。</li> </ul> <b>児童が本時の学習を理解できているかの確認</b>

# 算数ノート指導の共通項



知育パート

6年間を見通したノート指導をしましょう。

## 1 全校で共通する事柄

ア) ノートはマス目方眼のものを使用しましょう。(3年生以上は10mm方眼、又は5mm方眼、1・2年生は実態に応じて。3年生から10mm方眼が使えるように。) 筆箱の中に青・赤鉛筆を入れておく。

イ) ノートを書く過程として、以下の5つの過程は必ず書かせましょう。

①日付 ②問題 ③課題 ④自分の考え ⑤まとめ

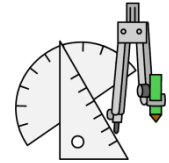
※ 練り上げの際にメモを取る場合は「友達(みんな)の考え」などの欄を、必要に応じて設ける。

ウ) 「問題」「課題」「まとめ」は線で囲みましょう。3色を使い分け、線は定規で引きます。

問題 → 黒 課題 → 青 まとめ → 赤

エ) 教師が児童のつまずきをわかるようにしましょう。

- ・計算の際の筆算などは消させない。
- ・間違いも消さず、直しをさせる。



オ) 発達段階に応じて、自力解決時に式や言葉の他に「絵・図・表・グラフ」を書かせて思考・表現できるように指導しましょう。

ちなみに・・・

「考えたこと」「気付いたこと」を吹き出しに書かせるノート指導は思考・表現を高めます。

## 2 学級・学年の実態に応じて柔軟に行う事柄

- 学習過程の頭文字を書かせるかどうか。(基本:すべて書く。)
- (例) 問題 → 問 まとめ → ま
- 毎時のノートの書き始めはどうするか。(基本:次のページから)
- ノートの脇(左)に縦線を引くかどうか。(基本:書かない。)
- あらゆる「線」を定規で引くかどうか。(基本:筆算の「=」の箇所は書く。)
- 1マスに書く数は何桁までにするか。(基本:1マスに2桁まで)
- 余白をどうするか。(基本:余白は空ける。特に計算や分数の表記など)
- 答えを「答え」と書くか「A」と書くか。(基本:答え。)
- 教科書のページ番号を書くかどうか。(基本:書く。)
- 単元名 (基本:書くが、導入授業の課題が出てから)

各学年のノート例を参考にしてください。  
高学年のノートをイメージしながら、そこに達することができるようなノート指導をしましょう。



# 戸二小 《道徳》 授業スタイル

## 授業づくりのポイント

### 仮面を被らせる

自分ではなく、主人公の仮面を被らせることで内面を出させる。本音を出させる。

### 葛藤場面での話し合いを深めるための場の工夫

葛藤場面で多様な価値観を出させるために、ペアや3人組での話し合いを取り入れる。全員で立って話し合い、終わったグループから座る。教師は、グループを回りながら話し合いの進め方を確認したり、話をつなげたり、双方の考えをゆさぶったりする。

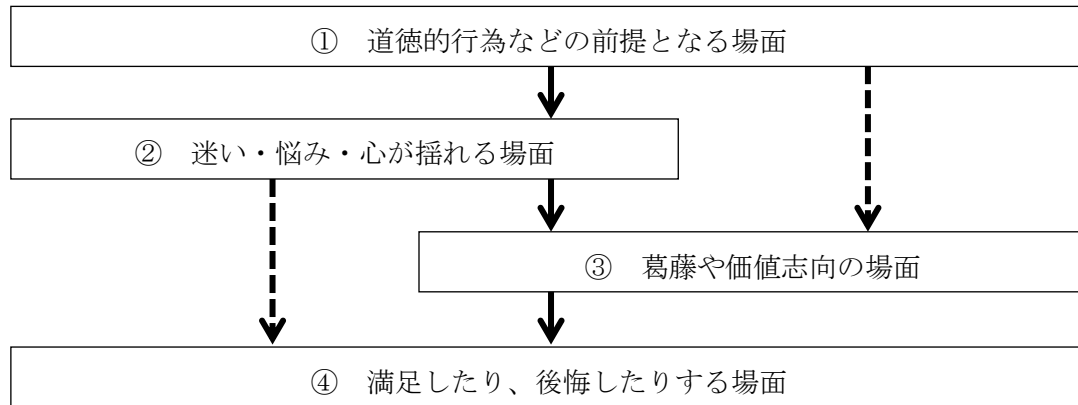
学習過程	指導のポイント・アイデア
<b>1 本時の価値を知る</b>  <b>2 題名を知る</b> <b>3 話の概要を知る</b>  <b>4 仮面を被る</b>	<b>本時の価値</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日勉強する価値について黒板に書く。児童は、そのことについて話をするんだという見通しをもてる。(学年・資料によっては終末に用いることもある。)</li> </ul> <b>話の概要を知る(条件・状況)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>主人公・他の登場人物について知る。</li> <li>登場人物の関係性を知る。</li> </ul> →この際に、顔のイラストが一緒にあるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「その後、どうなっていくのか？」児童が話を早く聞きたいなと思うような説明をする。</li> </ul> <b>仮面を被る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>主人公の仮面を被ることで「自分ではない。主人公はどう考えていたのか」となる。本音を引き出させる。</li> <li>仮面を被る時は、「目を5秒つぶってみる」「〇〇ちゃんに、へ～んしん」「教師が手をパンとたたく」など</li> </ul>
<b>5 第一発問</b>  <b>6 第二発問</b>	<b>第一発問</b> ・一の感情を十分に共感させる。  <b>第二発問</b> ・葛藤場面を選ぶ。十と一が半分半分の場所を発問に選ぶとよい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアや3人組での話し合い。十と一が一緒に入るような意図的な工夫が必要。(行為を2つに分ける)</li> <li>ここで多様な価値観に触れさせる。ゆさぶりを入れる。</li> </ul>
<b>7 第三発問</b> <b>8 仮面を取る</b> <b>9 ふりかえりをする【書く活動】</b> <b>10 教師の説話・『わたしたちの道徳』の活用</b>	<b>第三発問</b> ・覚醒場面。ねらいとする価値が出たら、短く切る。  <b>仮面を取る</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮面を被ったときと同じように、自分に戻る。</li> </ul> <b>ワークシートの記入</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>書く時間を5分はとりたい。ねらいについて書けるよう指導していく。</li> </ul> <b>教師の説話</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な存在である教師の話を聞かせる。</li> </ul> <b>『わたしたちの道徳』の活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいとする価値に迫る内容の部分を活用する。</li> </ul> ※ここはいろいろな工夫があってもよい。

○道徳の時間における話合いの目的 = 集団思考に基づく学び合い

- ① 道徳的価値のよさや実現することの難しさについての考えを深める
- ② 道徳的価値に関わる多様な感じ方・考え方を知る
- ③ 自分の感じ方・考え方の自覚を深める（現在の自分を知る）

Non A 「発表し合う」ことではない！！

○基本となる資料の構成



○授業展開の4つの視点 「共感的追求から始まる多様な展開」



# 戸二小 《道徳》 授業スタイル2

## 授業づくりのポイント

### 導入の工夫

アンケート結果等から、学習課題を自分の問いとして考え、それを解決していく授業展開をする。

### 発問の工夫

共感的発問・分析的発問・投影的発問・批判的発問を活用し、価値についての話し合いができるようにする。

学習過程	指導のポイント・アイデア
<b>1 アンケートから課題を考える</b>  <b>2 本時の課題を知る</b>  <b>3 題名・話の概要を知る</b> <b>4 範読を聞く</b>	<b>児童が自分の問いとして考える</b> ・自分達の中にある課題や問題点に気付くようにさせる。  <b>本時の課題</b> ・今日考えることについて黒板に書く。その課題を解決したいと意欲をもてるものに。(児童の発言を生かして)  <b>話の概要を知る(条件・状況)</b> ・主人公・登場人物の関係性を知る。 →この際に、顔のイラストが一緒にあるとよい。 ・「その後、どうなっていくのか？」児童が話を早く聞きたいと思うような説明をする。
<b>5 第一発問 (共感的発問)</b> <b>6 第二発問</b>  <b>7 第三発問 (価値についての発問)</b>	<b>第一発問</b> ・負の感情を十分に共感させる。  <b>第二発問</b> ・分析的発問・投影的発問・批判的発問から効果的なものを選ぶ。  <b>第三発問</b> ・価値についての発問・話し合う時間を十分に確保すること(具体的には、本時の課題を考える時間) ・グループ、全体での話し合い(一回半の学び合い) →教師は、話をつなげたり、双方の考えを揺さぶったりする。 ・教師側は、価値について(A)自律(B)社会律(C)他律(D)無律の基準をもっておくとよい。
<b>8 ふりかえりをする 【書く活動】</b>  <b>9 教師の説話・『わたしたちの道徳』の活用</b>	<b>ワークシートの記入</b> ・書く時間を5分はとりたい。ねらいについて書けるよう指導していく。 ・「友達から学んだこと」という欄を新しく設け、変容を見取る。  <b>教師の説話</b> ・身近な存在である教師の話を聞かせる。 <b>『わたしたちの道徳』の活用</b> ・ねらいとする価値に迫る内容の部分を活用する。 <b>※ここはいろいろな工夫があってよい。</b>

## 配慮事項 【授業をする際に、考えること】

スタイルは、あくまで例であり、

①フィクションかノンフィクションか ②教材 ③児童の実態 ④発達段階

この4点を考慮し、授業展開を工夫していくことが大切である。

# 戸二小 《体育》 授業スタイル

## 授業づくりのポイント

「技能」「態度」「思考・判断」をバランスよく育む授業づくり

- (1) 【動く楽しさ】：力いっぱい活動させてくれた授業（授業の基礎的条件）
- (2) 【集う楽しさ】：友達と仲良く活動させてくれた授業（態度）
- (3) 【わかる楽しさ】：新しいことに気付かせてくれた授業（思考・判断）
- (4) 【伸びる楽しさ】：技を高めてくれた授業（技能）

学習過程	指導のポイント・アイデア
1 整列・挨拶・健康観察	<b>学習規律の確立</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドサインを活用し、素早く整列する。</li> <li>・服装の確認をする。</li> <li>・気持ちのよい元気なあいさつをする。「はいっ！」</li> </ul>
2 戸二っ子体操	<b>準備運動の共通指導</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体操隊形は5秒以内にきびきびと広がる。</li> <li>・音楽を流し、毎時間確実に実施する。</li> </ul>
3 補強運動	<b>体力向上の取組</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力課題に関わる運動を実施する（26年度は投力）。</li> </ul>
4 慣れの運動	<b>基礎感覚の育成</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主運動につながる運動を行う。</li> </ul>
5 ねらいの確認	<b>本時の課題の重点化・焦点化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題をはっきりと示し、声に出して確認する。</li> <li>・本時の課題は、本時の中でできるようにする。</li> <li>・動きのイメージを持たせ、ポイントを理解させる。</li> <li>・教えるべきことはきちんと教える。</li> </ul>
6 主運動  ☆話し合い・教え合い	<b>メインの活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・70%（約32分）以上の運動量を確保する。</li> <li>・運動の特性を味わえるルールを工夫する。</li> <li>・1時間に100回以上の肯定的な言葉かけをする。</li> <li>・指導したことについての伸び、評価を確実に伝える。</li> </ul> <b>言語活動の充実</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの内容、話し合う方法をしっかり指導する。</li> <li>・思考の前提となる情報を提供する。</li> <li>・発達の段階に合わせた指導をする。</li> </ul>
7 後片付け	<b>学習規律の確立</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担をし、安全に効率的に行う。</li> </ul>
8 整理運動	<b>心身のリラックス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆっくりとした動作で行う。</li> </ul>
9 学習のまとめ	<b>本時の振り返り</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題についての振り返りを行う。</li> </ul>
10 整列・健康観察・挨拶	<b>次時への意欲付け</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の見通しを持たせる。</li> </ul>